

学会ホームページ <http://jasce.jp>

## 075号 (2024年4月30日)

### 目次

第20回全国大会の概要  
会員情報の変更届  
年会費納入のお願い  
『協同と教育』第19号の発行について  
『協同と教育』への投稿募集中  
『協同教育実践論文集』創刊号発行に向けた執筆・投稿規程と投稿区分  
第9回オンライン講座「日本の協同学習」を開催しました  
第10回オンライン講座「日本の協同学習」開催のご案内  
学会ワークショップ 今後の予定  
協同教育実践交流会（ミニ講座）を開催しました  
学会ワークショップの3コースを同時開催しました  
各地の研究会・勉強会  
協賛開催のお礼  
出版情報

### 第20回全国大会の概要

第20回全国大会を2024年10月26日（土）～27日（日）に中村学園大学・中村学園大学短期大学部（福岡市城南区）で開催します。本大会のテーマは「よい理論ほど実践的である－協同の理論と実践の往還－」です。協同を基盤におく教育や学習が発展し、さまざまな領域に浸透していくために、理論にもとづく実践や実践の気づきにもとづく理

論作りといった理論と実践の往還が生まれる場になるよう準備を進めております。1日目の午後には早稲田大学の河村茂雄教授をお招きして記念講演を開催します。多くのみなさまの参加をお待ちしております。

なお、福岡市の週末は観光需要の高まりによってホテル等の予約が難しくなる場合があります。どうぞお早めに宿泊のご予約をご検討ください。中村学園大学は地下鉄七隈線沿線にあり、博多駅や天神地区からのアクセスは良好です。

1. 大会テーマ  
「よい理論ほど実践的である－協同の理論と実践の往還－」
2. 大会日程と会場  
1日目：2024年10月26日（土）  
2日目：2024年10月27日（日）  
会場：中村学園大学・中村学園大学短期大学部2号館（福岡市城南区別府5-7-1）
3. 発表形式  
口頭発表（25分）研究発表と実践報告の2タイプ。  
ラウンドテーブル（120分）  
ワークショップ（120分）
4. 発表申込募集期間  
開始日 2024年6月1日（土）  
締切日 2024年7月31日（水）  
大会で発表できるのは、令和6（2024）年度までの会費完納者に限ります。
5. 発表要旨原稿受付  
開始日 2024年6月1日（土）

- 締切日 2024年7月31日（水）  
早期参加申込と大会参加費の支払いを完了する必要があります。
6. 参加申込と参加費支払い期間  
【早期参加申込】2024年6月1日（土）～7月31日（水）※会員のみのみ  
【事前参加申込】2024年8月1日（木）～10月18日（金）  
【当日参加申込】2024年10月26日（土）～10月27日（日）  
早期参加申込と事前参加申込は振込完了をもって申し込み完了となります。  
大会参加費とその振込口座については学会ホームページで別途お知らせします。  
（年会費の振込口座とは異なります。）
  7. イブニングセッション  
1日目の夕方にイブニングセッションとして立食形式で参加者間の情報交換の場を設けております。詳細については学会ホームページで別途お知らせします。
  8. 大会に関する問合せ先  
日本協同教育学会 第20回大会大会実行委員会  
〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1  
中村学園大学 野上 俊一 研究室内  
E-mail: [taikai@jasce.jp](mailto:taikai@jasce.jp)  
お問い合わせはE-mailでお願い致します。件名の冒頭に「第20回大会」の文言を入れてください。  
第20回大会実行委員長 野上 俊一

# JASCE

## 会員情報の変更届

年度がわりの異動や転居などにもなつて、所属・住所・メールアドレス等の変更があった場合、すみやかに会員情報変更をお願いします。届け出は学会ホームページの「会員情報変更フォーム」から随時可能です。(https://www.jasce/php/1044 form.php)

## 年会費納入のお願い

本年度の年会費5,000円の納入をお願いいたします。以下の口座に振り込んでください。未納の場合、学会細則第3条 (https://jasce.jp/1042saisoku.php) により会員資格を失うことがあります。

### ◇銀行振込の場合

金融機関名 ゆうちょ銀行  
支店 〇一九  
口座番号 (当座) 0315442  
名義 日本協同教育学会

### ◇郵便局で「振込取扱票」をお使いの場合

口座記号・番号 00100-8-315442  
加入者名 日本協同教育学会

## 『協同と教育』第19号の発行について

2024年3月に『協同と教育』第19号が発行されました。今号では会長の高旗浩志先生の結風から始まり、研究論文、実践研究論文ならびに書評がそれぞれ1編、集録されております。ぜひともお目通しください。

なお、今号より、2023年度分までの年会費納入者にのみ発送されております。未発送の方には2023年度分までの会費納入が確認され次第、順次発送いたしますので、よろしくお願ひいたします。

## 『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています(次号は第20号です)。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

## 『協同教育実践論文集』創刊号発行に向けた執筆・投稿規程と投稿区分

①『協同教育実践論文集』執筆・投稿規程

②『協同と教育』並びに『協同教育実践論文集』の投稿区分に関する申合せ

上記を学会HPに掲載しましたので、ご確認ください。みなさまの投稿や問い合わせをお待ちしています。

## 第9回オンライン講座「日本の協同学習」を開催しました

2024年2月10日(土)に第9回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたしました。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019、ナカニシヤ出版)を1章ずつ学ぶものです。今回は、第8章「協同を測る-協同作業認識尺度とその展開」を執筆された甲原定房先生(本学会理事、山口県立大学教授)より、協同学習における重要な概念やその測定方法について、熱心かつ詳細にご講演いただきました。参加者は会員20名、未会員1名の計21名でした。講座の進行は、事前に該当章を予習し、グループに分かれて自己紹介を行うことから始まりました。その後、予習の際に生じた疑問や興味関心について、参加者同士

で活発な議論が行われ、新たな知見が得られました。講座終了後のアンケートでは、「新年度にむけて“協同を測る”ことを模索していたので、とても興味深く話を聞くことができました」「協同の何を測るのかを明確にして、対象や時期、感情や行動面など研究デザインを具体的に検討することが大切だと学びました」などの感想が寄せられました。

次回、第10回オンライン講座(第11章「看護教育と協同学習」)の開催は、2024年6月22日(土)です。詳細については、今後ニューズレターならびに学会HPでご案内いたします。次回以降も多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

## 第10回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内

2024年6月22日(土)14時から、第10回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたします。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019、ナカニシヤ出版)をテキストとして1章ずつ学ぶものです。第10回は梅花女子大学の緒方巧先生を講師としてお迎えし、第11章「看護教育と協同学習」のご講話とご講話に基づく参加者間の交流を予定しています。学会ホームページから参加の申し込みをされた方にZoomのアドレスを送付いたします。テキストをご準備いただければ、未会員の皆様の参加も大歓迎です。参加費は無料です。皆さまのご参加をお待ちしております。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

# JASCE

## 協同教育実践交流会（ミニ講座）を開催しました

2024年3月9日と10日に創価大学にて「協同教育実践交流会（ミニ講座）」を開催しました。5名の先生方（原田信之先生、水野正朗先生、関田一彦先生、最首昌和先生、佐瀬竜一先生）による協同教育や協同学習の多様なトピックに関する90分のミニ講座を2日間で5つ開きました。大学院生や大学教員を中心に延べ56名の参加者が参加し、それぞれの講座では先生方の講話や参加者間の交流を通して、「協同教育への関心が高まりました。」「集団のもつパワーや効果、さらにそれらを意図的に方向づける具体的方法などが理解できました。」等の感想が寄せられました。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

## 学会ワークショップの3コースを同時開催しました

2024年3月9日と10日に創価大学にてベーシック・アドバンス・マスターの3コースを同時開催いたしました。関東地区での認定ワークショップは2019年7月以来の開催でした。

ベーシックコースの講師は太田昌宏先生で、参加者は34名でした。参加者からは「学習者の立場で体験できたことがとてもよかったです」、「理論を学ぶときに、どのような技法を使ってその内容を理解するかを、身をもって体験できた」、「課題意識をもってお集まりの先生方と話すことで学びが深まった」といった感想が寄せられました。

アドバンスコースの講師は伏野久美子先生で、参加者は15名でし

## 学会ワークショップ 今後の予定（判明分）

### <ベーシック>

8月3日（土）、4日（日）【主催】

会場：岡山大学教師教育開発センター東山ブランチャ（岡山県岡山市）

講師：サルバシオン有紀

最新情報、参加のお申し込みは学会HP (<https://jasce.jp/1031workshop.php>) からお願いいたします。

た。参加者からは「協同学習をしながら、協同学習の理論が学べたこと。現場で実践する時はどうするかを常に考えられたこと」、「共に学ぶ仲間との本ワークショップでの学びの体験が、日々の学生への授業に生きてくると思いました」、「ルーブリックの作成を学べたことは大きな収穫となりました。」といった感想が寄せられました。

2018年3月以来の開催となったマスターコースの参加者は12名でした。講師は、杉江修治先生、石田裕久先生、安永悟先生、関田一彦先生の4名でした。参加者からは「もう一度“なぜ協同学習なのか？”を考えて、人に伝えたいという気持ちになりました」、「それぞれの先生からから協同の本質に迫るお話や私たちに期待されることなどのお話から、多くの学びと自分の考えを深める機会となりました」、「事前学習とワークショップを通して協同学習の学び直しができました。同じ目標を持つ仲間同士で建設的な意見交換ができました。」といった感想が寄せられました。

1日目の夜には、ベーシック・アドバンス・マスターの3コースと協同教育実践交流会の合同での情報

交換会（懇親会）を開催しました。50名を超える参加者が一同に集い、その日の学びを語り合ったり、日々の教育実践での気づきを相談したり、新たな繋がりやアイデアが生まれたりと熱気あふれるひとときでした。

各ワークショップにご参加くださった皆様、2日間お疲れ様でした。現場で実践を続けられ、たくさんの質問や気づきを持って、どうぞまたワークショップにご参加ください。そして、今回100名近い人々が集った3つのワークショップの同時運営にご協力いただきました多くの皆様に深く感謝を申し上げます。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

## 各地の研究会・勉強会

(東京地域)

協同学習を用いた看護教育研究会 in Tokyo

◇第1回研究会実施報告

2024年3月16日（土）13:30～16:30、創価大学教育学部（B棟）601教室にて、第1回の研究会を開催しました。

# JASCE

研究会立ち上げの記念ともなる第1回のテーマは、「協同学習の魅力：看護学生の成長と未来を拓く基礎」としました。研究会では、添田代表の挨拶に続き、緒方巧先生、卜部紘子先生からいただいた応援メッセージの紹介、続いて、本日のプログラムの説明と参加者の自己紹介を行いました。参加者は、東京4名に加え、愛知1名、沖縄1名の6名で、それぞれの看護職者として、また看護教員として現在に至るまでの背景や、どのように協同学習を用いた看護教育に取り組み、その中で感じている課題などを共有しました。

基調講演は関田一彦先生にお願いし、「協同学習と看護教育」のテーマでご講演いただきました。

グループワークを行い、各自の実践に基づき活発な意見交換が行われました。少人数であったことから懇談的に進めることができました。参加者からは、「温かい雰囲気の中で協同学習について深く学ぶことができた」との感想がありました。その中で、学びたいテーマについて要望が寄せられ、次回の企画に取り入れることが提案されました。

## ◇第2回研究会ご案内

第2回の研究会は2024年6月29



第1回の研修会の記念写真

日(土)13:30から、会場は杏林大学を予定しています。今後ともよろしくお願いたします。

(代表：添田百合子、副代表：武信真理子)(写真)

連絡先：添田百合子 (ysoeda@soka-u.jp)

## (名古屋・東海地域)

### 名古屋・協同の学びをつくる研究会

◇2024年2月例会を、2月3日(土)13:30から名古屋大学教育学部・共通講義棟2階第3講義室で開催しました。参加者は14名。教職を目指す大学生の参加もありました。テーマは「学校教員(教師)による教育学研究：大学院前期博士課程で学ぶ」。報告を、学校教員を続けながら名古屋大学教育発達科学研究科に在籍し、修士論文を書き上げた2名の先生にお願いしました。出井伸宏先生(名古屋市立八熊小学校校長、4月から至学館大学)「省察的実践による社会科若手教師の専門性発達に関する実証的研究：名古屋市の指導体験記録の事例分析を中心に」、鈴木正幸先生(元小中学校教諭)「授業における子どもの思考の多様性に応ずる教師の意思決定」。

教師が自分自身や同僚の教育実践を科学的に分析して知見を得ることの意義、プロフェッショナルな行為としての省察的実践を日々行うことの重要性が、分析事例にもとづいて議論されました。

◇次回は、7月20日(土)15:00~17:00、名古屋大学教育学部1階大講義室で開催します。テーマは『「地域と共にある学校」の新たな挑戦：グローバルから見たローカルの

課題』。三重県美浜町立尾呂志学園(小中一貫)の取組みを手がかりにこれからの学校の課題について考えます。名古屋大学大学院附属授業研究国際センター主催で、本研究会とCBTE研究会が共同開催します。参加は無料。オンライン参加も可能です。詳細は下記連絡先にお問い合わせください。

連絡先：水野正朗(東海学園大学 mizuno-ma@tokaigakuen-u.ac.jp)



## 第5回協同学習と動機づけ研究会(三重)

◇2024年3月17日(日)に第5回「協同学習と動機づけ研究会」を開催いたしました。今回は三重県立川越高等学校の石田正寿先生のファシリテートで、ルーブリック評価におけるモデレーションに関するワークショップが行われました。会の最初に身体を使ったアイスブレイキング活動を行った後、高校における探究学習でのポスターを題材に、「よい探究にするポイント」を個人で考えた後、グループで共有しました。その後、「特派員」を使ったグループ間共有が行われ、全体的にも共有が行われました。会全体を通してたくさんの意見交換が行われ、まさに「促進的相互交流」によって新たなアイデアが生まれる研究会となりました。(中西良文・長濱文与)

# JASCE

連絡先：中西良文 (nakanishi.yoshifumi.mie.u.ac.jp@gmail.com)



## (大阪地域)

### 協同学習を用いた看護教育研究会

◇第51回「協同学習を用いた看護教育研究会」を2024年1月20日(土) 13時30分から17時00分、グランフロント大阪アクティブスタジオにて開催し、参加者は27名でした。会の冒頭では、能登半島地震の災害支援のために自衛隊伊丹駐屯地から10日間、被災地に赴いておられた関西福祉大学准教授の菊原美緒先生から、現地での支援活動の様子や、その派遣チームのチームビルディングのために協同の精神や技法が役立った等、貴重なお話を伺うことができました。

今回のテーマは「学習者にとっての『協同』を手がかりに協同学習を考える」とし、事前に参加者が身近な学習者たちの声を聴いたものを互いに持ち寄りました。グループ毎に学習者に育んで欲しい「協同する

力」について意見交換をした後、学習者たちの声を基に「学習者にとって協同を阻むもの・促進するもの」について考えを共有し、その上で、「学習者の協同する力を育むために教育実践で工夫していきたいこと」を話し合いました。次に、話し合いの内容を「特派員」で全体共有し、質疑応答を行い、今の学習者たちのリアルな思いや事情、その中で改めて大切にしたいことや具体的な手立てについて考え、見出すことができました。

研究会後のアンケートでは、「学生へのポジティブフィードバックが私たちの想像以上に学生たちへ勇気をもたらすことがわかったので、これからもっと意識的に行っていききたい」

「『1人でもやれる覚悟』という言葉が印象的だった。協同学習の意義を伝える時に、個人の責任だけでなく、人との協働のために自分で自分を認めること、自分で自分の立ち位置をつくることについても学生に伝えていきたい」「話し合いを通して、学生たちが本当に協同に対する経験値を持っていないことを実感した。まずは学生が経験できる場を設定すること、かつそこが成功し合う場でなければ、協同を進めるのは難しいと思った。安心できる環境をつくることの大切さを学べた」などの感想や気づきが寄せられました。

(文責：室住実恵、卜部紘子)

◇第52回「協同学習を用いた看護教育研究会」を2024年3月17日(日) 13時30分から17時30分、グランフロント大阪アクティブスタジオで開催し、19名の参加者のうち2名の方が初参加でした。

今回のテーマは「深い学びに導くための効果的な予習(事前学習)の仕掛けを考える」とし、事前課題として効果的な予習(事前学習)の仕掛けで①工夫していること・②難しさを感じていることを準備して参加していただきました。

まず話題提供として、杏林大学看護学部の武信真理子先生と千里金蘭大学看護学部の堀川真知子先生が「看護基礎教育におけるアクティブラーニングの予習に関する文献検討」に関する研究成果を発表されました。武信真理子先生はオンラインで参加され、参加者との質疑応答に応じていただきました。

グループ活動1では、各自が事前課題として取り組んできた実践例を共有できるよう付箋ワークにより意見を交換し、グループ活動2では、今後に向けた改善策について意見を出し合い、その後、お散歩参観をして成果物を全体共有しました。共感や称賛を伝えたい意見(付箋)には笑顔マークのシールを貼るなどして互いの実践にコメントしました。全体でのフリートークでは、多くの方が学生を深い学びに導くためには予習(事前課題)のねらい・意義の説明、評価、事前課題の提示時期・課題の量・科目・領域間での連携などについて、試行錯誤し工夫されていることがわかりました。

研究会後のアンケートでは、「ひとりで行き詰っていたが研究会でパワーをもらった」、「学生が自ら学ぶ動機づけに多くのヒントを得た」、「事前課題が授業、演習、実習、その先の看護実践につながる(必要な)ものだと学生が実感できるように教員の工夫が必要」などの声が寄

# JASCE

せられました。

(文責：荒巻富美・堀川真知子)  
◇次回は、2024年5月18日(土)  
13:30～17:30、会場はグランフ  
ロント大阪アクティブスタジオで、  
テーマは「高校教育の現状と看護基  
礎教育への接続・協同学習の意義」  
です。皆様のご参加を心よりお待ち  
しております。

連絡先：研究会代表 緒方 巧  
(t-ogata@baika.ac.jp)

## きょう探研(きょうどう探究型授業 づくり研究会)

◇協同学習型授業デザインプロ  
ジェクト—第1回 協同学習型授業  
デザインを作ろう—

- 対面…3月17日(日) 四條畷  
西中学校 13:00～16:30
- オンライン…3月30日(土)  
ZOOM開催 9:30～12:00

本年度の協同学習の授業デザ  
インを考えるプロジェクトの一環で行  
いました。このプロジェクトは協同  
学習に基づく小・中・高等学校での  
授業づくりはどのようなものかを考  
え、それを各学校の実践につなげて  
いこうとするものです。

今回はその第1回目で、「協同学習  
の考え方に基づく授業デザインを  
考える」という内容で進めました。  
内容は杉江修治先生の著書の内容  
を整理・分析したものを、参加者と  
検討する形で進めました。大阪の四  
條畷西中学校で対面にて開催しま  
した。ただ遠方の方や日程が合わ  
ずに参加できなくて残念という多く  
の声をいただきましたので、ZOOM  
でオンラインでの開催も急遽企画し  
開催しました。

対面 3月17日(日)  
四條畷西中学校 13:00～16:30



オンライン 3月30日(土)  
ZOOM開催 9:30～12:00



第2回目のプロジェクトは5～6  
月ごろに、今回考えたデザインを実  
際の授業で活用するという視点か  
ら検討するという内容で実施した  
と考えています。これ以降、第3回、  
第4回と回を重ねていき、各学校で  
の実践につながる形まで高めてい  
きたいと思います。

ご意見ご要望がありましたら、遠  
慮なく下記の連絡先までよろしくお  
願いします。

連絡先：代表 中村哲也(常磐学  
園大学 nani7272@yahoo.co.jp)

## (中四国地域) 協同学習研究会(岡山)

◇今年度も4回の研究会を開催し  
ます。対面とオンラインのハイフ  
レックス開催です。事前にメールア  
ドレスを頂いている方には、各回の  
1ヶ月前を目処に開催のご案内をお  
届けします。その後、参加希望者に

対して、開催日の1週間前を目処に  
当日の資料をメール添付でお届け  
します。参加希望の方は高旗  
(takahata@okayama-u.ac.jp 岡山  
大学)までご一報ください。今年度  
から、終了後の懇親会を復活させたい  
と思っています。なお、第3回と  
第4回の発表者を募集中です。  
第1回 6月15日(土) 中学校・理科  
第2回 8月24日(土) 小学校・国語  
第3回 12月7日(土)  
第4回 2025年3月1日(土)

連絡先：高旗浩志(岡山大学教  
師教育開発センター takahata@  
okayama-u.ac.jp)

## (沖縄地域)

### 協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa

◇2024年3月23日(土) 14:00～  
17:00に開催しました。

今回は研究会の発足を兼ねたお  
祝いの要素を含んだ研究会にな  
りました。参加者は52名で県外から  
は9名の方がここ沖縄に集いま  
した。特にこれまで沖縄の協同学習に  
関わってこられた緒方巧先生、安永  
悟先生のご参加は研究会発足に重  
みを与えて下さったと感謝いたしま  
す。

研究会は休憩をはさみ二部構成  
としました。前半は、「協同学習を用  
いた看護教育研究会 in Okinawa」  
を立ち上げるに至る経緯とその目的  
について説明をし、その後、「協同学  
習を組織的に取り組むことへのチャ  
レンジ」、「学内における協同学習の  
具体的実践例」として学校法人湘  
央学園浦添看護学校の取り組みを紹  
介しました。

「協同学習を組織的に取り組むこ

# JASCE

とへのチャレンジ」では、入学前、さらに入学後の1年から3年までの各教科目(特に看護学)を通して途切れることのない一貫した協同学習の実践について報告しました。また、学内での授業科目のみならず臨地実習にまで及ぶ取り組みは看護専門学校における学び方を示すと同時に協同学習を定着させることに繋がる効果があることを報告しました。それについては参加者からは「学生の学びの成果を可視化し、形にしていくことの必要性がある」とのご意見を頂きました。今後の課題であることを認識しました。

また、「学内における協同学習の具体的な実践例」ではジグソー学習法及び特派員を用いた「健康支援を知る実習」について紹介しました。この実習は5つの看護領域を横断する形で4か月という長期間にまたがる実習です。実習の目的は「地域の中で生活する人々を捉え、人々の健康を維持・増進するための支援の在り方を学び、看護師としての基礎的能力を養う。」ことです。実習前の学内における課題学習、実習後の学びの共有にジグソー学習法と特派員を活用しました。5月から9月にかけての実習展開は、学生の学びが徐々に深まり、その成果を1月の臨地実習に活かすことを目指した展開です。緒方先生曰く「まるでバームクーヘンのようだね!」は私どもが目指す実習展開を説明するのに的確な表現だと思いました。

このような実習展開は、1年間協同学習を体験した2年だからこそできるのではないかと思います。しかし、さらにより良い展開方法もあるのではないかと考え、休憩をはさみ



後半では「健康支援を知る実習」の実践報告を受けて「学生の学びをさらに深めるには」をテーマにグループワークを行いました。協同学習に初めて参加する人もいたことから各グループにファシリテーター的な役割を担うことができる参加者を配置しました。その方たちに事前に承諾を得ることはありませんでしたが、自然発生的にファシリテーターの役割を担い、限られた時間の中で活発にグループワークを進めていました。参加者のアンケートにグループワークについての記述が多かったことから、この進め方は効果的だったと納得しました。さらに初めて協同学習を体験した参加者の「協同学習をやってみたい」という動機付けにもなったと思います。最後に参加者のアンケート結果を簡単にまとめました。

1. 研究会で良かったこととしてグループワークを挙げていました。

\*グループワークの進め方を協同学習の基本に則って実施し、各グループにファシリテーターとして協同学習に通じている教員を配置したことが効果的だったようである。

\*内容としてよかったことは、臨地実習で協同学習を展開する方法に興味を持ったということでした。

2. 今後、企画してほしいこととしては、①授業見学 ②協同学習初学者向けの内容 ③協同学習技法の体験 ④現任教育での実践 ⑤グ

ループワークについて ⑥教育実践報告の共有 ⑦協同学習の評価 ⑧協同学習を足並みそろえて理解できる学習会等が挙げられました。

文責：協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa

連絡先：代表 浦添看護学校・学監・知念榮子 (chinen\_e@sho-oh.ac.jp)

## (全地域)

### 全国看図アプローチ研究会

◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』20号と21号を公刊しました。『全国看図アプローチ研究会研究誌』20号掲載論文▼

1. 看図アプローチを活用した遠隔授業の試み(5) -オンライン環境における看図作文授業モデル【授業の流れ編】 -

石田ゆき kanzu-journal.vol.20\_pp.3-17.pdf

2. 看図アプローチで文法のオンライン交流学習 -きゅうちゃんて特別支援学級と通常学級をつなぐ-

田中 岬・大澤晴江・石田ゆき kanzu-journal.vol.20\_pp.19-38.pdf

3. 「変換」活動の重要性に配慮した看図作文授業の試み

伊藤公紀 kanzu-journal.vol.20\_pp.39-47.pdf

4. 編集後記(鹿内信善)・奥付 kanzu-journal.vol.20-henshukoki.pdf

# JASCE

『全国看図アプローチ研究会研究誌』21号掲載論文▼

1. 高校地学基礎における看図アプローチを活用した授業実践—半減期と過去の大気濃度の研究について学ぶ—

寺田昂世・溝上広樹 [kazu-journal.vol.21\\_pp.3-10.pdf](https://kazu-journal.vol.21_pp.3-10.pdf)

2. 高等学校における看図アプローチ研修プログラムの開発と実践

溝上広樹 [kazu-journal.vol.21\\_pp.11-21.pdf](https://kazu-journal.vol.21_pp.11-21.pdf)

3. 看図アプローチの理論を活用して数学を学ぶ—「よく看ること」は数学的思考を補完する—

石山信幸 [kazu-journal.vol.21\\_pp.23-33.pdf](https://kazu-journal.vol.21_pp.23-33.pdf)

4. 編集後記(鹿内信善)・奥付 [kazu-journal.vol.21-henshukoki.pdf](https://kazu-journal.vol.21-henshukoki.pdf)

連絡先：研究会事務局長 石田ゆき  
[kazu.approach.office@gmail.com](mailto:kazu.approach.office@gmail.com)

## 協賛開催のお礼

貴学会にご協賛いただいたタオス・インスティテュート・ジャパン(TIJ)の設立総会は、2023年9月9日(土)、10日(日)の二日間に行われ、関西大学千里山キャンパスにて開催され、大盛況のうちに終わることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。TIJは、国際NPO法人The Taos Institute® (<https://www.taosinstitute.net/>)の日本チームで、The Taos Institute®は、社会構成主義の理論と実践の推進を目指し、社会心理学者Kenneth Gergen、ナラティブセラピーのShelia

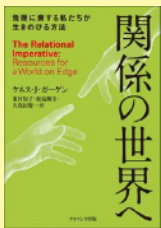
McNamee, Harlene Andersonが中心となって組織された非営利団体です。オンラインでさまざまな学びや交流の場が提供されていますが、そのほとんどが英語であり、日本語で学びたいという声が高まっていました。設立総会の開催後にもさまざまなプロジェクトが立ち上がり、来年度は、定期総会を明治大学で開催することが決定しています。詳細は、ホームページ (<https://taosinstitutejapan.com/>) をご覧ください。TIJの活動に賛同される方は、どなたでもご参加いただけますので、ご興味のある方は、ぜひのぞいてみてください。お待ちしております。

タオス・インスティテュート・ジャパン 共同代表 鮫島輝美・東村知子

## ● ● ● 出版情報 ● ● ●

### 『関係の世界へ』

【翻訳者】東村知子・鮫島輝美・久保田賢一 ナカニシヤ出版



本書は、社会構成主義の第一人者ケネス・J・ガーゲンの『The Relational Imperative: Resources for a World on Edge』の翻訳書である。変化の激しく予測不能なこの時代を、私たちが共に生き抜き、持続可能な未来を創り出すためには、関係の

あり方とそのデザインが鍵になるとガーゲンは考える。本書は、ガーゲンの研究活動の集大成である『関係からはじまる』(ナカニシヤ出版)をもとにしたものだが、教育、ヘルスケア、組織、ガバナンスなどの分野における実践例を交え、平易かつコンパクトに書かれている。前書のボリュームと難しさに途中で投げ出してしまったという読者も、ぜひ再挑戦していただきたい。

### 協同学習実践資料②⑦

### 『単元見通し学習の理論と実践』

【著者】杉江修治・水谷茂 一粒書房



本書は、1970年代に、『バズ学習』という協同学習理論の実践の中で開発された「単元見通し学習」という授業づくりの理論を、現代の実践例とあわせて紹介したものです。

主体的な学びの実現には、何より、学習者が「学びに向かう構え」を持つ事が不可欠の条件です。そのためは、細切れの毎時の学習の見通しを越えて、単元単位での学びの見通しを持たせることが

有効です。なぜそれが有効なのか、どのように実践化していくのか、について解説を施しています。また、実践の紹介では、その再現性を高めるために、できるだけ詳しい資料を付けています。本書から、今、求められている教育現場の実践づくりに応える理論と事例について、協同を基盤においた実践研究が、明らかな先見性を持っていたことが理解されると思います。なお、本書の内容は、学会HPの出版案内にPDFで掲載されていますので、どなたもご覧いただけます。